

復興デザイン会議 第1回全国大会 登壇者



実行委員長

原田 昇

復興デザイン会議全国大会第一回が開催され、復興デザインの研究者、デザイナー、実践者らが集い、その活動の輪を広げる機会を持つに至ったことを大変に嬉しく思うとともに、今後の発展に期待します。

経歴 1983年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、工学博士。計量社会学研究科教授を経て、1985年より東京大学工学部助教、同助教授、同准教授を経て、1999年より新領域創成科学研究科教授。2005年に工学系研究科教授に異動し、東大副学長を務めた。GLAFS、まちづくり大学院、復興デザイン研究会などの教育活動に貢献。専門は都市交通研究所所長、日本交通政策研究会代表理事。国の審議会委員、学会の理事を歴任。



基調講演

伊藤 穀

東京大学の社会基盤学・都市工学・建築学の垣根を取り払い誕生した復興デザイン研究体には、新しい時代のとびらを押し開くようなエネルギーが充満しており、傍目にも眩しかぎりでした。このたびの全国展開はそのセカンドステップ。一ファンとして今後も活動を期待とともに見守ってゆきたいと思います。



基調講演

佐藤 健司

東日本大震災をはじめ、復興を議論する必要のある災害が頻発しています。復旧と復興の違いのひとつは、人間の心理学的な側面を中心据えるかどうかであります。建設系分野が中心となって、復興をデザインする総合型の学術を創成していく必要があります。

経歴 高知工科大学システム工学群教授。専門は、海岸沿岸部の侵食、変形機構の解明と環境安全、津波高潮の防災対策など海岸工学全般。著書に「漂砂環境の創造に向けて」(共著・土木学会編)、「海岸施設設計便覧」(共著・土木学会編)、「東日本大震災の科学」(共著・東京大学出版会)など。東京大学工学系研究科土木工学講師修程修了後、同大学助手、横浜国立大学助教授を務める。建設省土木研究所河川部海岸研究室主任研究員、室長。東京大学教授を経て、現職。

各セッション登壇者



審査委員



大会実行委員



プログラム

12月7日 (土)

9:00-12:30

U-30 復興デザインコンペ 公開審査会・作品展示討論会

9:05 作品展示討論会 (ポスターセッション)

10:30 最終プレゼンテーション

審査委員

内藤廣 宮城俊作 姥浦道生
千葉学 柄澤麻利 羽藤英二

13:30-14:30

小さな学びの復興 建築家の復興デザイン

乾久美子

「土木との協働により小さな風景を取り戻す
釜石市立唐丹小学校・釜石市立唐丹中学校・釜石市唐丹児童館での試み」

日野雅司

「陸前高田市立高田東中学校の復興プロセスと
建築家の役割について」

司会: 本田 利器

14:30-15:30

復興現場の政策論 実務家による復興デザイン

姥浦道生

趣旨説明
「住宅復興の全体像と被災者の意向変化」

菊池雅彦

「被災者支援の枠組みとその背景」

赤川俊哉

「山元町における被災意向の把握」

司会: 千葉 学

15:45-16:45

U-30 復興デザインコンペ 公開審査会・表彰

16:45-17:45

基調講演「都市史と復興」

伊藤毅 (建築史・青山学院大学)

司会: 井本 佐保里

18:00-18:45

研究論文部門 / 政策・計画・設計部門 表彰式

司会: 羽藤 英二

1日目終了後、懇親会 ※会場内・立食形式で実施いたします。(参加費:一般 2,000円、学生 500円)

会場

東京大学本郷キャンパス (東京都文京区本郷 7-3-1)
工学部1号館 15号教室

※ポスターセッションは、2階社会基盤学専攻演習室で実施します。

資料

大会関連資料 URL
http://bin.t.u-tokyo.ac.jp/dss/publish_symposium_1.html

※右 QR コードからも大会関連資料を閲覧可能です。
※その他の大会情報は、大会 HP や Twitter をご覧ください。
http://bin.t.u-tokyo.ac.jp/dss/symposium_1.html
twitter @UT_ReSU

編集・発行 復興デザイン会議全国大会実行委員会

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学工学系研究科復興デザイン研究体 / TEL. 03-5841-1672

(五十音順)

復興デザイン会議 第1回全国大会

危機の中にある都市

2019年12月7日 (土)・8日 (日)

東京大学本郷キャンパス 工学部1号館

都市は危機の中にあるはずだが、日常の眩しい光の中で、忘れ去られたように、今日も地域は計画され、都市は設計され、さまざまな政策は其処彼處で遂行されているだろう。しかし一旦災害がおきれば、あついう間にそうした日常の風景は奪われ、人々は傷つく。阪神淡路大震災、中越地震、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨、各地で歴史の中で繰り返してきた災害に際して、地域は存亡の危機に直面し、当たり前の政策・計画・設計が通用しない過酷な状況に陥る。そんな中、私たちに何ができるだろうか。

自らに向けた問い合わせ更新しながら、傷ついた地域に踏みとどまり格闘を続ける実践者と、長い時間、災害と地域の営みの実践的な研究者と実践者のネットワーク構築を目指して、復興計画デザイン会議の第一回全国大会を、ここに開催します。

主催: 復興デザイン会議全国大会実行委員会 / 事務局: 東京大学復興デザイン研究体



復興研究論文賞 受賞者

審査員（敬称略）

審査委員長：原田昇（交通計画）

大月敏雄（建築計画）菊池雅彦（復興計画）小林祐司（避難行動）
佐藤慎司（海岸計画）田島芳満（海岸計画）田中貴宏（都市計画）
羽藤英二（都市計画）本田利器（地震工学）円山琢也（交通計画）
森脇亮（環境工学）

審査委員長 原田昇

審査総評

国内外の復興に取り組んでいる個人、自薦・他薦合わせ 27 名の応募者に関して、彼らの主要論文・関連論文を推薦理由も参考し、11名の審査員で評点付け、審査委員会にて受賞者を決定した。復興に関わる学術的な理論や研究方法論の構築、知見や技術の体系化など、多彩な研究者の中から、復興デザインへの貢献や地道な継続を重視しての選定となった。この論文賞の取組みが、復興研究の多様な展開を推し進める一助となることを期待する。

審査委員長 原田昇

最優秀賞

乾 康代



経歴 奈良県生まれ、大阪大学文学部哲学科（ドイツ哲学）卒業、ドイツ系企業勤務の後、大阪工業大学工学部建築学科卒業、京都芸術大学大学院修士課程修了、大阪市立大学大学院博士課程単位取得退学、博士（工学）。茨城大学教育学部助教授、教授。2019年3月退職。



最優秀論文賞ありがとうございました。東海村の原発は住宅地に取り囲まれています。住民の安全より原子力施設地に優先された東海村の立派な地域開発の研究に着手して1年、東海村から、廃炉後の地域再生のあり方を求めてドイツ、イギリスへと調査をすこめてきました。利益説明マニーに依存せず自立した地域、持続可能な地域をどのように描くのか、地域の方々とともに考え続けていきたいと思います。

牧 紀男



経歴 1968年和歌山県出身。1997年に京都大学大学院工学研究科で博士（工学）を取得。1998-2004年地盤防災プロトタイプ研究センター研究員。2005年京都大学防災研究所准教授、2014年-京都大学防災研究所教授。著書「復興の防災計画」「災害の住宅誌」（鹿島出版社）他。



優秀賞（若手：35歳以下）

鈴木 さち



経歴 現在、ユネスコジャカルタ事務所日本信託基金コーディネーターとして勤務。東北大大学院工学研究科都市・建築学専攻博士課程単位取得退学（博士）。同大学修士課程修了、学士課程卒業。



今回、復興デザイン会議を開いて頂き、また賞を頂き感謝しております。今後、どのような場所や環境で働くとしても、多様なステークホルダーによる災害復興やより良い居住環境の計画といったテーマを追い続けたいと思います。

萩原 拓也



経歴 1989年愛知県出身。2014年東京大学大学院工学研究科修士課程修了。（株）日本設計（都市計画群）勤務、東京大学大学院学術支援職員を経て、2019年より東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻／復興デザイン研究体特任助教。



この度は、「復興研究論文賞」優秀賞を頂き、誠にありがとうございます。地域が繰り返し災害に対して如何に適応してきたか、を考えることを通して、災害－復興－日常をつなぐ計画・デザインに貢献できればと思います。

奨励賞（学生）

益子 智之



経歴 早稲田大学大学院創造理工学研究科建築学専攻博士後期課程3年。日本学術振興会特別研究員DC1／1990年大阪府生まれ。2014年早稲田大学創造理工学部建築学科卒業。2017年同大学創造理工学研究科建築学専攻修了。修士（建築学）。専門はまちづくり、都市計画。



このたびは、復興研究奨励論文賞を賜り、誠にありがとうございます。指導教員やイタリアの共同研究者、交流のある若手復興研究者など多くの皆様に心から感謝いたします。今後も、復興研究に寄与できるようにイタリア震災復興の研究を丹念に続けていきたい。

渡邊 莹



経歴 熊本県出身。2017年3月熊本大学工学部卒業、2019年3月熊本大学自然科学研究科博士前期課程を修了。2019年4月より熊本大学自然科学研究部博士後期課程に在学中。



この度は奨励論文賞を頂き誠に感謝申し上げます。受賞対象の論文は、益城町役場や多くの大学生ボランティアの方々と共に実施した仮設住宅聞き取り調査に基づくものであり、関係者に改めて御礼申し上げます。現在も益城町を対象に活動を継続しており、復興現場の解決課題の一助となる研究成果につなげたいと考えております。

（五十音順）

U30 復興デザインコンペ 1次選考通過者

審査員（敬称略）

審査委員長：内藤廣（建築家）
副委員長：宮城俊作（ランドスケープデザイナー）
姥浦道生（復興制度研究者）千葉学（建築家）
柄澤麻利（建築家）羽藤英二（都市工学者）

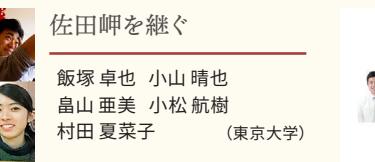
U30 へのメッセージ

豊かな自然に恵まれたこの国は、同時に諸々の自然災害に見舞われる変動要因の多い国土を持っています。自然災害は、日常生活を脅かし社会に揺さぶりを掛けます。一方で先人たちは、これらを受け入れる中で技術を磨き、わが国独自の文化や風土を形成してきました。今を生きるわれわれも、常に切磋琢磨することを求められています。若い世代は、勇気と熱意をもってこれに挑んでもらいたい。

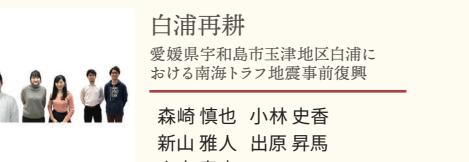
審査委員長 内藤廣

見慣れた景色 見慣れない風景

立花 和弥（熊本大学）



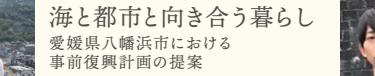
熊本地震から3年半が経過しましたが、本来長い時間をかけて解決すべき様々な課題が一気に押し寄せてきたような感じがしています。それでも逆境にめげず立ち向かい、改めて建築とは何かという問い合わせを追いかけています。



佐田岬を継ぐ
飯塚卓也 小山晴也
畠山亜美 小松航樹
村田夏菜子（東京大学）

サイクリングロード計画 つないで守る明るい浜

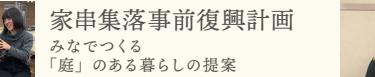
辯諭涼太 木原拓海（愛媛大学）



海と都市と向き合う暮らし
宗野みなみ 石井健太
久野遼 竹中信乃（東京大学）

漁業が「繋ぐ」 宇和島の未来

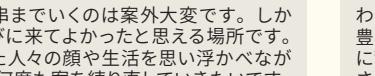
叶井和樹 門田昌也（愛媛大学）



家串集落落成前復興計画
みなづくる
宗野みなみ 石井健太
久野遼 竹中信乃（東京大学）

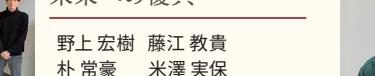
豊橋事前復興計画 みなづくる

児玉欣輝 藤岡歩 本間聖也
Lim Jia Yen 岡本亮太
小松薰芽 毛利智明（豊橋技術科学大学）



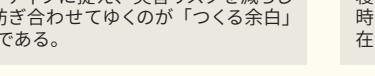
豊橋事前復興計画
児玉欣輝 藤岡歩 本間聖也
Lim Jia Yen 岡本亮太
小松薰芽 毛利智明（豊橋技術科学大学）

遠まわりするまち 佐鳥蒼太朗 岡村壮真 北島萌絵 中岡桃子 福田暁子（東京大学）



余白で紡ぐ
未来への復興
野上宏樹 藤江教貴
朴常豪 米澤実保
羽佐田紘之（東京大学）

水と共に生きるまち 芝原貴史（乾久美子建築設計事務所） 小関玲奈 柴田純花（東京大学）



表裏一体の自然といきる
小粥慶子 中島直弥
猪股誠野（日本設計）

水がみえるまち 三輪潤平 中津川銀司（日本設計）



私たちが被災地と関わる中で、事前復興の重要さと難しさを議論してきました。事前復興の実現には、災害を日常から切り離さず、思みと災いの両方をもたらす自然との付き合い方そのものを考え直すことが重要だと思います。

復興政策賞 / 復興計画賞 / 復興設計賞

審査員（敬称略）

審査委員長：羽藤英二（都市工学）
副委員長：小野田泰明（建築計画）徳永幸久（都市計画）
赤川俊哉（都市計画）秋田典子（ランドスケープ）
窪田亜矢（地域計画）千葉学（建築設計）
廣井悠（防災計画）山口敬太（土木計画）渡部英二（復興事業）

審査総評

最近10年のうちに各地で取り組まれた復興に関わる政策・計画・設計について網羅的な調査を行い、未だ途上のものを除く候補の中から、8人の審査員が現地を見て回り、議論を尽くして審査を行った。政策を判断し、計画をつくり、設計から竣工へ、当たり前の仕事につないでいくことが困難な状況下で、地域の暮らしの営みを読み解き、卓越した専門性と献身的な行為に支えられた意思のある仕事を選定した。復興政策賞・復興計画賞・復興設計賞の受賞各位に敬意を評したい。

審査委員長 羽藤英二

復興政策賞

くしの歯作戦 国土交通省東北地方整備局

事業概要 津波により孤立した沿岸部への救命・救援ルート確保のため、東北地方整備局を中心に関係者が連携し、内部の東北自動車道と国道4号の「縦軸」から「くしの歯」のように沿岸部に伸びる15ルートもの国道を整備。沿岸の国道4号は3月18日までに約97%が通行可能となつた。



復興計画賞

中越メモリアル回廊 公益社団法人 中越防災安全推進機構

事業概要 中越メモリアル回廊を設置・運営。中越メモリアル回廊は、長岡震災アーカイブセンターをはじめ、おぢや震災ミュージアムそなえ館、やまこし復興交流館おおたる、川口きずな館、木麗メモリアルパーク、妙見メモリアルパーク、震央メモリアルパークで形成される。



復興設計賞

釜石市立唐丹小学校・釜石市立唐丹中学校・釜石市唐丹児童館

有限会社乾久美子建築設計事務所
株式会社東京建設コンサルタント

事業概要 被災した児童館、小学校、中学校の建て替え計画。海岸沿いの小さな漁業集落と子どもたちによる見える、楽しく、安心感のある環境が生まれたと感じています。その努力をみていただけたかと想い、感謝しております。



十津川村復興公営住宅

十津川村（代表）

事業概要 2011年9月の紀伊半島大震災で被災した奈良県十津川村、村づくりアドバイザー・コンサルタント・設計事務所がチームを組み、村づくりの戦略を検討しながら復興事業を推進した。現在でも集落活性化や高齢者福祉、林業の6次産業化などの取り組みが進んでいる。

